

INTRODUCTION

商人として立ち、 商人として変わり続ける

グループ企業理念

三方よし

企業行動指針

ひとりの商人、無数の使命

初代伊藤忠兵衛、そして、その後の先人たちがそうであったように、
世の中の「流れ」に合わせて絶えず自らの形を変え、
商いを一つひとつ積み重ねることで、
それぞれの使命を果たしていきます。



商売は菩薩の業、商売道の尊さは、
売り買い何れをも益し、
世の不足をうずめ、御仏の心にかなうもの

初代 伊藤 忠兵衛

カタチを変える

多様化する消費者ニーズに対応するために、
消費者接点の「データ」の重要性が一層高まっています。
総合商社が将来を見据えた対応を推進する場合、商流の川下を押さえ、
商流全体を俯瞰して、ビジネスの「カタチを変える」ことが重要です。

消費者のニーズに合わせて

Market-Oriented

利は川下にある

当社は、強みである生活消費分野における消費者接点を活用し、
売り手や買い手、世間のニーズを捉えた「マーケットイン」の発想での
商品・サービス等の新たな価値の提供に取り組めます。

「商い」のあり方を今一度見直し、川下を起点とする事業変革やバリューチェーンの
最適化を図ることで、非資源分野を中心とした強固な収益基盤の更なる強化を進めます。

持続可能性を高める

「脱炭素化」は、各国のエネルギー政策再考等に伴い、一時的に減速する可能性があります。長期的には加速すると予想されます。

総合商社の「総合力」を発揮した脱炭素ビジネスを推進し、社会と自らの「持続可能性を高める」ことが重要です。

社会の変化に合わせて

SDGs

脱炭素を商機に

当社は、ビジネスのあり方にまで影響を及ぼしているSDGsの潮流を機会と捉え、強みである非資源分野を中心とした既存の事業基盤を活用することで、着実に収益モデルの構築に繋がっています。

当社のSDGsに対する取組方針に変更はなく、長期視点でGHG排出量削減を着実に推進していきます。

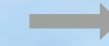
ブレることなく 商人であり続ける

短期目標と中長期目標、経済価値と環境・社会価値、投資家や株主の皆様、取引先や金融機関、社会、そして社員とその家族。
外部環境の変化に応じてビジネスの変革を続けながらも、商人としての不変の価値観「三方よし」を商いの中心に据え、「何れか」ではなく「何れも」追求し、信用や実績を着実に積み上げていきます。それが、当社の企業価値の持続的拡大に向けたアプローチです。

株価

819円

2010年3月末



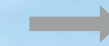
4,144円

2022年3月末

時価総額*

1.3兆円

2010年3月末



6.6兆円

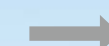
2022年3月末

*自己株式を含む

連結純利益

1,611億円

2010年度



8,203億円

2021年度